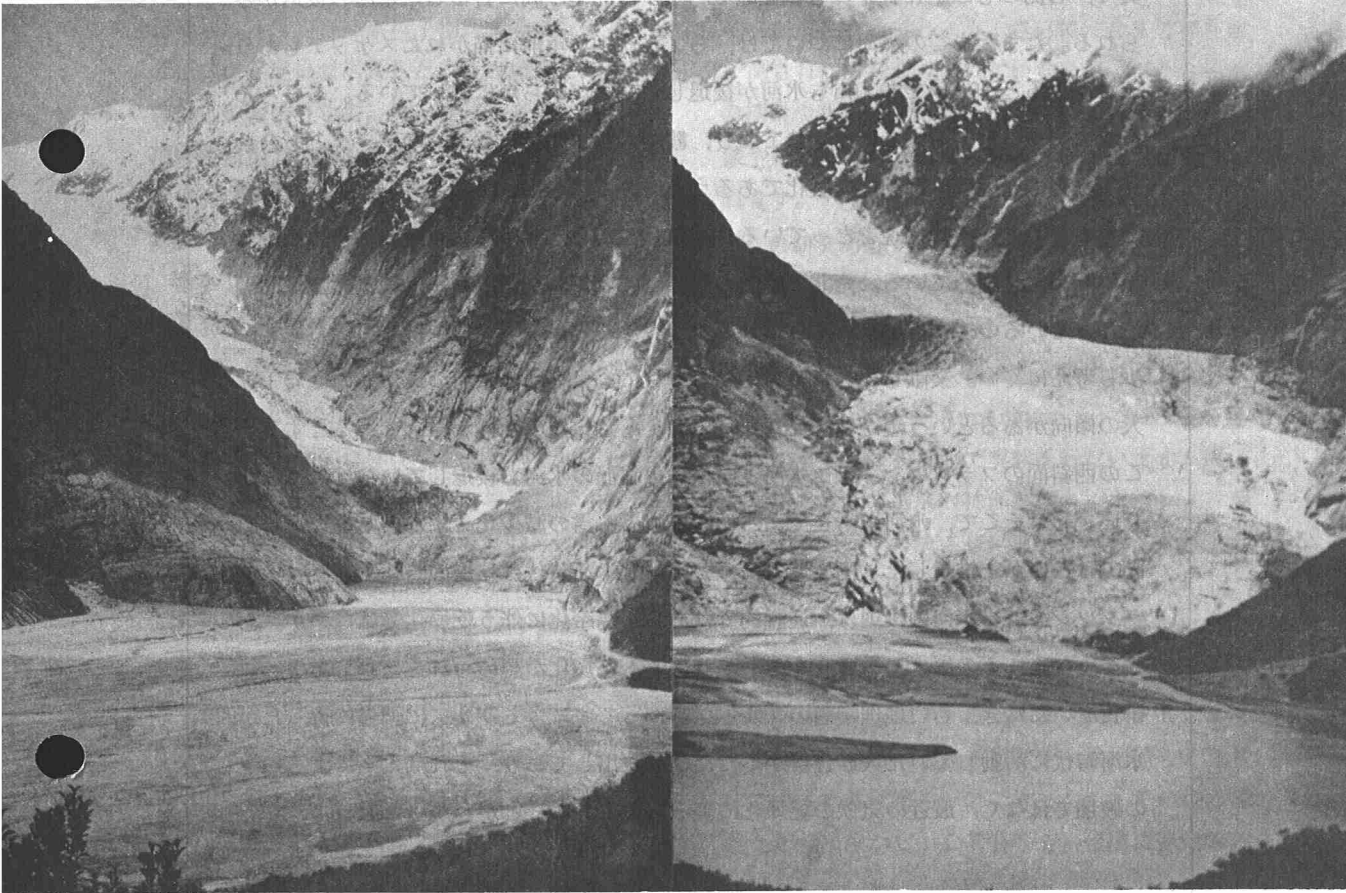


# 廣報

東京大学理学部



## 目次

表紙の説明	1	
素粒子物理国際センターの発足	小柴昌俊	2
田園将蕪	吉田鎮男	3
宇宙はなぜ大きいのか?	佐藤勝彦	4
〈学部消息〉	6	

## 表紙の説明

写真は、ニュージーランド南島のフランツジョフホテルの食堂でもらったメニューの裏・表にあった続き写真である。左側が1972年におけるフランツジョセフ氷河の写真で、右側のものが1947年のものである。たった25年の間に著しい氷河の後退がみられる。たまたまこの氷河については、ちょうど100年前に描かれたスケッチもあり、それによると100年で2000mも氷河が後退したことが明らかになっている。もちろんそれに関する報告もすでに出されており、観測された気温（都市）のデータとも合わせて、この原因は、南半球の暖化であろうという推論が出されており、南半球の気候学者の多くはこの暖化説をとっている。しかしながら、北半球の学者の多くは最近の気候寒冷化を認めている。南北の寒暖の変化は、万年、千年というオーダーでは同調してきているので、百年オーダーだけ反対ということは、不可能ではないにしても、少し考えにくい。文献をいろいろ見ているうちに、東斜面の氷河のあるものは若干拡大の傾向があるという短かい記述に出あった。もし気温の上昇が原因であるとするこの西斜面のフランツジョセフ氷河と同様に東斜面の氷河も後退していなければおかしい。私はそこで、氷河のもとである偏西風による雪の減少化、すなわち乾燥化が原因ではないかと推量した。南半球の多くの土地は氷河時代は乾燥の時代であった。フランツジョセフ氷河の後退は、逆説的ではあるが寒冷化に伴う乾燥化ではないか。もしそうなら、その風上にあるオーストラリアでも乾燥化が認められるはずである。科研費をいただき、若い地理学者のグループを作ってオーストラリアに調査に行ったが、氷河時代に活動していた大砂丘群がふたたび動き出しており、それは人為による植生の破壊ではなく、最近の気候の乾燥化によるものであることがわかった。

地 理 鈴 木 秀 夫